



みょう じょう
明 星

～さんと輝く明星の
高き希望と めざしつっ～
(大宮小校歌 3番より)

名護市立大宮幼稚園・大宮小学校
学校便り 第22号
令和5年12月11日発行
発行者 校長 比嘉 悟

「思春期健康教育」特設授業(5年生)

12月4日(月)、名桜大学助産学専攻科のみなさんの協力で、5年生の「思春期健康教育」特設授業が行われました。

めあてを ①自分と他人の命について考えることができる。 ②身体と心の変化について理解し、大切にすることができる とし、「生命の誕生」「思春期の身体と心の変化」について学びました。助産学専攻のみなさんが用意したプレゼンテーションや具体物等を通して、子どもたちに生命の誕生や思春期の特性について、わかりやすく教えていただきました。子どもたちも意欲的に参加し、充実した学習となりました。このようなコラボ学習は、学生のみならずにとっても、子どもたちにとっても貴重な学びの時間となっています。今後も継続して、自分の心と身体、命について学ぶ機会を行っていきたいと思います。ありがとうございました。



【子どもたちの感想】(5年生)

・赤ちゃんは、自分たちの心ぞうの音の速さより、2倍くらい速いのと心拍数が自分たちよりも多いことを知りました。おなかの中で音が聞こえる時期は5ヶ月ごろだとわかりました。にんぷは、赤ちゃんがいるから、おなかじゃまで、くつもはきづらいと知ってびっくりしました。しゅんきになると心が変わったり、(イライラしたり、周りの人からどう思われるか気になる、好きな人ができたり、おしゃれをしたりしたくなる)体も変化したり、(女の子は体がふっくらし、男の子はきん肉がついてくる)など、いろいろなことが知れてよかったです。

・プライベートの話を聞いて、いつもプライベートに入っているなんて知らなかったから勉強になりました。それと、いざのときは「いや!」「やめて!」と言って、場所を「はなれる」「にげる」ことが勉強になりました。思春期の話を聞いて、いろいろな思春期があるんだなーっと思えました。

・ぼくは、にんぷさんのことで赤ちゃんがどれだけ重いのかがわかりました。この学習でにんぷ体験をして、赤ちゃんはこんなに重いんだ、こんなににんぷさんはつらいんだなーとわかりました。この経験を通して、にんぷさんがいたらゆずったりとか優先的にやりたいと思いません。

・ぼくは、性教育講演会で、最初はとても小さいつぶだった自分が、今はこんなに心も体も大きくなっているんだなあと改めて思いました。これからも、いろんなつらいことがあると思うけど、お母さんが産んでくれた大切な命だから、しっかりと自分と向き合いたいです。

・2ヶ月くらいの赤ちゃんの大きさが、さくらんぼぐらいでとてもちっちゃかったのでびっくりしました。そして心ぞうが1分間に160～180回も動いていると知っておどろきました。おなかの中にいる赤ちゃんも尿やうちをするんだなあと知りました。

思春期の体の成長は一緒だと思ったけど、成長は人それぞれだとわかりました。自分や相手の体と心を大切にしようと思いました!

